

講師 略歴

小宮輝之（こみや てるゆき）

1947年東京生まれ。

1972年明治大学農学部卒。同年4月、多摩動物公園に就職。日本産動物と家畜の飼育係となる。その後タンチョウ、トキ、コウノトリ、ガンなど日本の希少鳥類の飼育繁殖技術の開発に関わる。ノウサギの飼育展示、カリガネの日長調節による繁殖、コウノトリの計測による雌雄判別などで技術表彰を受賞する。

1988年動物園のズーストック計画策定を担当し「種の保存」と「環境教育」を柱とした動物園整備計画をまとめる。

1990年、上野動物園飼育係長となりズーストック計画に基づき最初に完成したゴリラの森で上野初のゴリラの誕生に立ち会う。井の頭自然文化園飼育係長、多摩動物公園飼育課長、上野動物園飼育課長を経て、2004年上野動物園園長に就任 2011年まで務める。

2006年の冬、35年前にはじめて担当したクマの飼育経験からクマの冬眠を実現させたいという念願が叶い、世界初のツキノワグマの飼育下での冬眠展示に成功する。2008年から地球温暖化により絶滅が心配されるライチョウの飼育繁殖への取り組みを開始する。在来家畜・家禽の保護にも力を入れ、戦国武将の乗っていた木曾馬、美しい尾長鶏などの日本鶏など、日本人の作り出した文化財、遺伝資源として、飼育展示しながら保存を試みた。

図鑑収集癖が高じて、最近では自分自身で「日本の哺乳類」（学研 2002）、「フィールド動物観察」（学研 2004年）、「原寸どうぶつ図鑑」（宝島社 2006）、「日本の家畜・家禽」（学研 2009 秋篠宮殿下との共著）、「鳥の原寸大足型・足跡ハンドブック」（文一総合出版 2012）などの図鑑を著す。

他の著書に「物語上野動物園の歴史」（中公新書 2010）、「鳥あそび」（二見書房 2011）、「昔々の上野動物園、絵はがき物語」（求龍堂 2012）など。